

截金ガラス作家 山本 茜 × 企業家 吉田 忠嗣

人々に感動をお届けするロマンが挑戦し続ける

ジャンルにとらわれない幅ひろい見識と感性で

京都から新しい美を発信し続けている吉忠株式会社の吉田忠嗣社長が

注目のアーティストと語り合う新春恒例の初夢対談。

平成最後となる二十四回目は、截金をガラスの中に浮かせる

新しい芸術を創始した截金ガラス作家の山本茜さん。

美しさのためには苦労をいとわないポリシーにロマンを感じます。

紅余曲折を経て誕生した芸術

吉田 あけましておめでとうございます。

山本さんの作品を初めて拝見したのは確か

二〇一一年。こんな繊細な技術を身につけて

いるのだから、さぞ大変テランの作家さんな

のだろう……と思つたら笑)若く美しいイ

ンテリジェンスに溢れたお嬢さんで驚いた

のを、昨日のことのように思い出します。

山本 あけましておめでとうございます。今

私もよく覚えております。その年の四月に京

都市に工房を構え、京都で開いた初めての個

展でした。これから作家としてやっていく

か不安ばかりの船出でしたが、吉田社長の陰

日向にわたる応援が励みとなり、それ以来

私は勝手に「京都の父」と呼んでいます笑)

吉田 「京都の兄ではだめでしょうか(笑)

冗談はさておき「截金ガラス」は山本さんが

独自に編み出された表現技法で、ほとんどの

方が初めて見る作風だと思います。私も最初

は人間わざではない。神が創った」とさえ思

いました。この截金ガラス作品へと至るまで

には、さまざま経験や思考の変遷があつた

ことと拝察いたします。確かに出身は金沢

で、日本画家を志して京都(京都市立芸術大学)

女性初の文化勳章受章者の展覧会を拝見して

「こんな美しい日本画を描きた!」と、急きよ

志望を変更し、大あわ

てでデッサンや色彩を

勉強しました。まさに

一夜漬けです。

吉田 それで合格する

のですから、日本画の

才能もお持ちだったの

でしょう。

山本 いえ、それが、自

分が描きたい絵と教授

のご指導とのギャップ

に悩んで落ち込みまし

た。そんなときに出



源氏物語シリーズ第四十帖「御法」

いとわず選択し、「一分の隙も妥協も許さず描いてあります。金箔を焼き合

わせて細く切り、それを貼つて文様を構成するな

ど、一点にかける時間や重みが違うのです。私は模写を通じて「作品はこうして創るもの」という姿勢を学び、体に染みこませてきたのだと思いま

す。

吉田 どんなについ選択でも、それが最良だと思えるなら、その選択肢を迷わず選ぶ。私たちもファッションや呂服の世

界に身を置いております

のでよく分かれます。「美しいか否か」を選択基準

としたとき、美を選べば多くの場合が困難な道を歩むことになります。大

変なことは分かっている

が、やはり「美しくあることを選んで挑戦します。

聞くところによると、いま創つていらっしゃる作品は七回失敗して、八回

に貼つては違うともかくばかり。

吉田 なるほど。元来が装飾のための截金な

ので、それを何とか貼つた時点で、従来と同

じ装飾になってしま……。

山本 そうなのです。だから「貼つて装飾に

なるなら、貼らなきやいんだ(笑)って思

いました。至り、空間に浮遊させる方法を模索し始め

ました。

吉田 大学受験から紅余曲折を経てたどり

着いた表現手法だったのですね。千年前の美

術品が現代の私たちに感動を与えてくれる

ように、金箔とガラスという自然の物質しか

使わない山本さんの手法もまた、ご自身の作

品に永遠の生命をふきこみ、千年後の人たち

に感動を与えていることでしょう。

吉田 はい。当初は美術史を学びたかったの

ですが、入試直前に上村松園先生(日本画家)

女性初の文化勳章受章者の展覧会を拝見して

「こんな美しい日本画を描きた!」と、急きよ

志望を変更し、大あわ

てでデッサンや色彩を

勉強しました。まさに

一夜漬けです。

吉田 それで合格する

のですから、日本画の

才能もお持ちだったの

でしょう。

山本 いえ、それが、自

分が描きたい絵と教授

のご指導とのギャップ

に悩んで落ち込みまし

た。そんなときに出

いとわず選択し、「一分の隙も妥協も許さず描いてあります。金箔を焼き合

わせて細く切り、それを貼つて文様を構成するな

ど、一点にかける時間や重みが違うのです。私は模写を通じて「作品はこうして創るもの」という姿勢を学び、体に染みこませてきたのだと思いま

す。

吉田 どんなについ選

択でも、それが最良だと思えるなら、その選択肢を迷わず選ぶ。私たちも

ソフト面、つまり自身の努力はもちろん、

ハード面である設備も常に先端のものを取

り入れて更新していく必要があります。

吉田 私たちは企業活動も同じなのですが、未

知の領域にチャレンジしていくためには

ソフト面、つまり自身の努力はもちろん、

ハード面である設備も常に先端のものを取

り入れて更新していく必要があります。

吉田 そうですね。私の截金ガラスは緻密

に温度管理をしないと創れないのですが、

近年になって電気炉の保温性能が上がり、

また、焼成したガラスの徐冷もコンピュ

タープログラムで細かく制御できるよう

なったことで、截金ガラスの制作が可能に

なりました。

吉田 研磨の機械や工具もご自身で設計さ

れているとか。

吉田 私たちは吉忠株式会社設立二〇〇〇周年(創業一四三年)、吉忠マネキ

ン株式会社は七〇期決算でした。そんな節

目の年に京都府から、山本さんも受賞され

ている京都府あけぼの賞にて「三〇回記

念特別賞」を、また京都市からは「自治一二

〇周年記念市功労者特別者表彰」をいた

を新たにしています。

吉田 おかげさまで昨年は吉忠株式会社設立二〇〇〇周年(創業一四三年)、吉忠マネキ

ン株式会社は七〇期決算でした。そんな節

目の年に京都府から、山本さんも受賞され

ている京都府あけぼの賞にて「三〇回記

念特別賞」を、また京都市からは「自治一二

〇周年記念市功労者特別者表彰」をいた



2018吉忠マネキン展示会

「新しい伝統のはじまり」なのです。

吉田 ありがとうございます。私も今日、あ

らためゆつくりお話ししさせていただき吉

忠社長ご自身や吉忠さんという企業が、今な

お変革を続けて成長されていることを肌で

感じ「私もまだ先に進まなきや」と思い

りました。

吉田 研磨の機械や工具もご自身で設計さ

れているとか。

吉田 私たちは吉忠株式会社設立二〇〇〇

周年(創業一四三年)、吉忠マネキ

ン株式会社は七〇期決算でした。そんな節

目の年に京都府から、山本さんも受賞され

ている京都府あけぼの賞にて「三〇回記

念特別賞」を、また京都市からは「自治一二

〇周年記念市功労者特別者表彰」をいた

を新たにしています。

吉田 これから学ぼうとする矢先に、専門家

間通つのですが、入学してすぐ先生に「截

金を入れるのは不可能」と言われてしま

いました(笑)。

吉田 ガラスの専門知識が必要だったた

め、富山県にあるガラスの専門学校に二年

で、先生に絵師たちのように妥協せず、隅々ま

で隙のない品格あふれる作品を創つていき

たいと思っていました。

吉田 それまで二次元表現だった截金が、ガ

ラス空間に浮かせることで三次元表現へと

進化しました。描ける世界が無限に広がつ

た反面、表現に必要な技術も無限に求められ

ることになり、一回一回の作品づくりもまた

挑戦の連続なのではないですか。

吉田 一生かかると思います(笑)ですが私

が新しいことに挑戦することは、すなわち皆

が新しくなります。